

どうか教えてください。この気持ちはなんなのでしょうか？

障害のある我が子たちを公立校に行かせる意味というか理由がわからなくなってしまい・・・

① Sさんから

今日、突然メールしてしまいすみません。

実は今、自分の中で障害のある我が子たちを公立校に行かせる意味というか理由がわからなくなってしまい、メールを送らせていただきました。

長女は念願のエンパワメントスクールに合格して喜んで通っていましたが、四月後半から体調を崩しはじめ、おそらく過敏性腸症候群と思われます。原因は人間関係と勉強の難しさがある気がします。

その頃、ちょうど小3の長男が学校に馴染めず支援の先生とも意見が合わなかったり、クラスメートに怪我をさせたりと私がそちらにかかっていたので気がつくのが遅くなりました。

娘は、自分で決めた学校なので文句を言いながらも頑張っているのですが、私は正直心配なのと、やはり軽度とはいえ知的障害があり持病のある子供を公立校に入れたのは間違いだったのでは無いか...と、思い始めています。

学校の先生にも、理解のある私学や高等支援学校を勧められていましたし。

でも、彼女が選んだ道なので全力でサポートはしますが、それをきっかけに、高校に進学することの意味が自分の中でわからなくなっています。

定例会に参加するようになってから、小3の息子を地域の中学校に入れようと思うようになりました。夢もできました。息子を寝屋川高校の二部に入学させてあげたいと思うようになりました。ですが、娘でこんなにアタフタしているのに、息子を高校にいれようなんて無理な気がしてきたのです。

そもそも高校って、なんのために行くのか、明らかに長男と長女では理由が違います。

私は長男のような人も地域で生活しているという事を知ってもらうために、あえて幼稚園から地域に入れていきます。もしかしたら、側から見れば本人とその家族の自己満足や思い出づくりととられるのかもしれない。

高校は受験して、入学させて貰うと思っています。そのためには、学校の方針にもある程度合わせなくてはならないし、勉強をしに行くところだと思っていますので、留年もしかたありません。高等学校の勉強ができないのであれば支援学校や高等支援学校に行って就職する為の技術を学ぶ。そう教えられてきました。

その気持ちは私の中に今もあります。

その反面、支援学校、高等支援学校に行ったからといって確実に求めている就職につけるわけでも無いのであれば、息子を健常児のみんなのなかでゆっくりと色々学ばせてもらってから社会に出てもいいのかもしれないなあ〜と、思いもあります。

小学校の先生に息子を地域の中学校に入れようと思っているとお話したところ、本人が望むなら...とのことでした。

やはり、親のエゴと取られたのかなあと、感じました。

公立校に入って頑張っておられる皆さんを見ると、すごいなぁと感じて勇気や元気や希望をいただいています。自分にはそこまで出来ないのではないか、してはいけないのではないかと、モヤモヤとした気持ちがあります。

とても失礼な事を書いてしまい、気分を害されていたらすみません。
この気持ちがわからないのです。

どうか教えて下さい。
この気持ちはなんなのでしょう。

② Mさんから

お母さんの「いまの気持ち」は、「地域でともに学び、ともに生きる」ことを目指す親たちの100人中100人、つまり100%、全ての親が経験する気持ちだと思います。

「公立校に入って頑張っておられる皆さんを見ると、すごいなぁと感じて勇気や元気や希望をいただいています」と書かれましたが、決してそうではないんですよ。

Sさんにはそう見える親たちも、みんな今のSさんと同じ思いを抱いていた時期があったし、ひょっとしたら現在もそれが顔を出すこともあるのかもしれない。

なぜなら、社会の側に「差別」があるからです。

だから、障害がある人もみんなと同じように地域の小・中学校に通い、普通の高校で学んで、卒業していききたいという、あたりまえのことができなくなっているのです。

それをやろうとすれば、制度（入試制度や、進級、卒業認定・・・等々）においても、人間関係においても様々な圧力や抵抗が次々と現れてきます。そういう社会ですから障害者だけではなく、他の人たちも生きにくさを持ってしまいます。

例えば、娘さんの高校生活の困難を感じ出しているといわれましたが、障害のないまわりの高校生たちの中にも、同じように高校生活の困難を抱えている人たちもあるはず。障害があるからだけの問題ではないと、私は思います。

「親のエゴ」とまわりから「いうともなしに、ひしひしと伝わってくる感じ」、これもよくある話です。「障害があるのにみんなといっしょに学ばせるなんて、親のエゴよ。苦しくなるのは本人なのに。そらみたことか、勉強が難しく泣いているじゃないの」なんて話は、もういっぱい山ほど聞いてきました。一種の「都市伝説」です。

本当に子どもと親が共に悩み、苦しみ、嬉しさも感じながら、経験したのではない、思い込みから出てくる言葉ではないのでしょうか。

しかし反対に、Sさんが苦しいから「娘さんを高校から支援学校へ転学させる」のならば、これは「親のエゴ」だと、私は思います。絶対にやってはいけないというつもりはありませんが、Sさんが苦しくて、身体的にも精神的にも耐え難い苦痛を感じるのならば、それも一つなのかもしれません。

しかしそのときは、娘さんに「自分の苦しみのために（エゴのために）転学させた」と話すべきだと思います。厳しい言い方になりますが、娘さんは立派なひとりの主体なんですから、きちんとけじめはつけるべきだと、私は考えます。

つまり、「エゴ」という言葉も、「本人のため」も、「その子に合ったやりかた」も、本当の使い方とは反対に使われ、通用してしまっているように思います。

なぜそんなことになるのか、それは繰り返しになりますが、「差別」のある社会だからです。

ではどうしていけばいいのか？

それは、自分の思いを話すことです。

ひとりしんどいのです。二人いれば、お互いに愚痴を言いあうことができます。三人いたら、行動がはじまります。私はそう信じています。

いま、Sさんが私に語ってくださったこと、それが一歩ではないでしょうか。私には何にもできませんが、聞くことはできる。そして、他の人達といっしょに話し合うこともできます。

まず、定例会で話しましょう。いやもっと早い方が良ければ、直接会って話しましょう。遠慮することなどいりません。他の人も誘って、ワイワイと話しましょう。

みんなそうしてきたのですから。声を上げてください。

③ Sさんから

ありがとうございます。

今まで一人で考え、悩んでいた事を吐き出したというか、聞いてもらった事で少し落ち着きました。

今日、娘と話をしてみようと思います。そして学校にも相談して、彼女がどうすれば少しでも安心して学校生活が送れるかを一緒に考えていただこうと思います。

娘は進学を希望していて、すでに自分で進学先を探し始めています。正直、もう無理だと本人の口からでたら、単位制の学校か定時制の高校に転校させようと思っていました。でも、まだまだ私のやれることがあるし、それは置いておこうと思います。

皆さんに私のこの気持ちを聞いていただきたいのですが、私がMさんに送ったメールを皆さんにも見ていただきたいのですが、いいでしょうか。

経験豊富な皆さんのご意見をきかせていただきたいです。

④ Mさんから

Sさんからメールが届きました。

Sさんはみなさんの言葉を待っておられます。よろしければ、感想、ご意見など寄せてください。

⑤ Tさんから

いつもたくさんのアドバイスやご意見いただいてありがとうございます。

Mさんが書かれている通り、「このまま続けるのはしんどい。いっそう、支援学校へ行けば楽になれるかも。」と思う時もある一人です。

K(息子さん)は楽しそうに高校へ通っていますが、定期テストで点数が取れないので、どうしたものかと持て余している自分がいます。ときに、学校から、進路変更の打診があると、私がしんどくなり、「もう、支援学校へいこうか？」と言うときがあります。Kは、いつも「あかん」と言います。

支援学校卒業後の就労における課題は、職場での人間関係と時間管理だという話を聞きました。だからこそ、分けるのではなく、皆と同じ場で共に学ぶことに意味があるのではないかと考えています。

教育に関わる人の中には、分けて個人に合った・能力に合った勉強を勧める人もおられます。一方で、「学校の先生や医者は一時期しか見ない。誰も責任は取ってくれない。一生面倒見るのは親や。納得のいくようにしたらいい。迷惑だなんて考えなくていい。」「校長先生も最後は人間や。人として付き合えば、きっとわかってもらえる。」と、立場とは関係なしに、言ってくださった方もおられます。

Yさんが書いておられるように、最後は、子ども本人が決めることかと。

前川さんの勉強会で、当事者の方が、「自分はみんなと一緒に学校へ行きたかった。でも(親が支援学校を選んで)分けられた。」とおっしゃっていたのが、印象的でした。他の当事者の書かれた本で、「一番の差別者は、障害者をかわいそうと思う親だ。」と書かれていてショックでした。

Kは発達がゆっくりなためか、高校の時期になってグンとできることが増えてきています。高校レベルには全く達することはできませんが、その成長ぶりは、周りの子どもたちや、一部の先生方に伝わり始めています。今のKのやる気の源は、みんなへの憧れや、みんなと同じようにできるようになりたいと思う気持ちです。しかし、別室の個別学習では、見本が見えなくなってしまいます。だから、みんなと同じ場で勉強したい。しかし、同じ基準では到底単位認定は難しい。とても矛盾した次元にいます。

とりとめのない文章になってしまいましたが、先輩方が道を開かれたからこそ、また、Kを理解して支えてくださる方々に出会えているからこそ、ともに生きる、ともに学ぶチャンスに恵まれています。

しんどい時もありますが、嬉しいこともあるので、たくさんの方々への感謝を思い出して、前に進んでいます。しんどい時に知恵や勇気をもらえるからこそ、北河内の方々の活動は大きな意味を持ち、私も頑張れているのだと思います。

⑥ Nさんから

今春、(府立)高校に入学した自閉症男子の父親です。

3月の北河内連絡会では、皆様から心温まるご祝詞とともに花束までいただき、誠にありがとうございました。

今のところ息子は1日も休むことなく高校に通っています。新しい環境のためか帰宅後情緒不安定に陥ることもありますが、中学校に入学して間もなく二次障害を発症したときと比べると、まだ随分落ち着いているように思います。

高校は、来年から募集停止となるため、最後の1年生となりますが、定員200名に対し受験した188名全員が合格、留年した7名を加えた195名が息子と同じ学年です(6クラスあります)。家から徒歩15分と近く、生徒の1割は息子と同じ中学校で、保育園からずっと同じでよく知っている子もいます。

高校は、よく話を聞いてくれて、また配慮してもらっていると思います。

高校側(教頭、首席、学年主任)とは、合格発表当日に2時間、入学前の登校日に3時間にわたって打合せを行い、翌日には中学校から個別の教育支援計画の引き継ぎもしてもらいました。来週日曜日の参観日には、高校における個別の教育支援計画について打合せを行う予定です。

何よりも専属の介助員(同校卒業生の30代男性)を配置してもらえたので、日常、特に不便は感じていません。

授業は、国数英が抽出(マンツーマン)、それ以外はクラスメイトと一緒にですが、クラスとの往来がしやすいよう、抽出授業の教室はクラスの隣に設置してもらえました。

学力が低い、また家庭に事情のある生徒が多いためか、高校の先生方は、生徒に寄り添い、熱心に指導してくださる方が多い(首席、学年主任、担任いずれも30代で若い)ように感じます。

先日は、板書消しや起立礼の号令など日直の仕事を息子が無事に務めたことを褒めてくださり、本人も嬉しそうに帰ってきました。

これから定期試験の評価がどうなるか、進級できるのかといった不安はありますが、3年後の廃校を見据え、最後の1年生195名が留年せず揃って卒業していけるよう、高校全体がサポートしてくれているような雰囲気があるので、少し楽観的に考えています。

以上、現時点では高校に進学してよかったと私は思っています。

とり急ぎメールにて近況ご報告まで。

⑦ Nさんから

大阪府の公立高校については、これまで諸先輩方の働きかけや取り組みのお蔭で、障害者受入れに寛容だと思っております。

専属介助員配置や抽出授業など、私立高校であれば認めていただくことは難しかったのではないのでしょうか。

他の都道府県にお住いの保護者の方と Facebook のグループを通じ情報交換する機会がありますが、そのなかでも、大阪府はインクルーシブ教育の先進地域であることをあらためて実感しているところです。

何より息子本人が「中学校より高校がいい」と申しています。

(一番気に入っているのは中学校になかった食堂のようです。ただ今後、生徒数が年々減少していくことで、卒業まで食堂が存続されるかどうか心配です)

⑧ Sさんから

Tさんのメールを読ませていただいて、改めて自分の子供たちに対する気持ちを見つめなおしました。私は、長女と長男では高校進学の意味が違っていたと思いますが、もしかしたらそこからすでに差別と言えいいのか、分けてしまっていた気がします。三人とも抱えている辛さは違うけれどみんな同じなんだと、うまく言えませんが思いました。

「一番の差別者は子供をかわいそうだと思う親だ」という一文を読んだ時に、私がそうだと感じました。勝手に、「この子達はこれから辛いことばかりなのに生きていかなければならない。かわいそうだ。」とっていました。

昨日、長女本人と話をして本当に辛くなったら我慢せずに言って欲しい。と伝えました。今日、帰宅した時に娘の表情が明るいので聞いてみると、自分で保健室に行き、保健の先生に体調の事や友達のことを相談した！と報告してくれました。その日の音楽の授業は休んでしまいましたが、娘の表情から少し前に進もうとしているように感じました。

その後、私と主人が心配していた事や、今の過敏性腸症候群はこれからの人生でまたやってくるかもしれないけど、その度に少しずつその問題を乗り越える力をつけていけるはず、ゆっくりと付き合っていこうと話しました。

一方的なマイナス思考なメールにとっても心のこもったご意見をありがとうございました。

小3 自閉傾向が強い息子は、学校の統合で校舎が変わり、さらに支援担とクラス担任もかわり、ここ1カ月は荒れに荒れています。いつまでこれがつづくのか、家が壊されるんじゃないか、また誰かに怪我をさせているんじゃないかと、そればかり考えていました。

支援担はクラスに休憩スペースを作る事に前向きではなく、先生の考えとしては、自発的に自分で自分に合った環境を探すこと、自分でクールダウンする支援学級へ行くと言うことを身につけさせたいという方針です。それがこのタイミングで習得させなければならない事なのか。私自身はまだ納得できていません。

Nさんのメールを読ませていただいて、いつか息子も自分で楽しい！と言える場所を見つけることが出来たらいいなあと、ふと思いました。

主人との話で、息子の中学校は地元でいい？と今更確認すると、「歩いて3分で行けるんやからいいやん。」と言う答えでした。その時、そうだなあ〜と、もしかしたら難しく考えすぎてたのかなあと(とはいえ、難しい事はやっぱり沢山ありますが)、思いました。

三人とも同じ家に生まれてきた姉弟で、同じように進路を選択すれば、させればいい。と思いまし

た。

高校とは再度、細々と出て来た問題に対して相談していきながら、理解してもらえよう頑張ろうと思います。またご相談する事もあると思いますが、これからもよろしくお願ひします。

⑨ Aさんから

今、外から帰り、読ませていただきました。とても、大変な思いをなさっていたらうに、また続くことであろうに、Tさん、Nさんが体験をもとに、しっかりお書下さったり、皆さんの温かく、ゆったりと見つめる目と励ましの気持ちを受けられて、お連れ合いやお子さんたちと、現実を前を向いて歩こうとなさっていることがよく伝わってきました。

ありがとうございます!!!

実は、きょうでも、お電話しようかなあ〜と思っていた矢先です。それでは、またメールなり、北河内の連絡会なり、お電話なりで、お聞かせくださいね。

弟さんの事も、お聞かせくださって、一緒に考えさせていただきたいなあ〜と思っておりますので。

⑩ Nさん

Sさま

こんばんは。

自閉傾向のある小学生の息子さんについては、以前、直接お話しを伺っていたので、覚えております。

うちの息子も自閉傾向が強く、小学3、4年生の頃は、超問題児で大変でした。学校の先生や同級生の眼鏡を折り曲げて壊すこと27回（個人賠償責任保険で保険金を請求したので記憶しています）、教室の窓から教科書を放り投げる、放課後デイ支援員の顔面を殴るなど、何度お詫びの電話を入れたかしれません。

小4夏に、帰宅後パニックで暴れることが増えたことから抗精神病薬を処方してもらい、ようやく落ち着きました。

その後、6年生の運動会で皆と一緒に組体操に参加することができたことが大きな自信となり、そのまま地域の中学校への進学を決めました（市教委や小学校長からは支援学校中等部を奨められました）。

しかし中学校に入学して間もなく情緒不安定に陥り二次障害と診断されたことから、一時は支援学校中等部への転校を検討しましたが、教育委員会を巻き込み学校と何度も話し合い、学校長と担任教諭を主治医の診察に呼んで学校のサポート環境を改善してもらった結果、中2頃から落ち着くことができるようになりました。

息子の問題行動が原因で健常生徒から引き離し支援教室に隔離しようとする支援学級担任と、クラスで健常生徒と一緒に過ごせるようにしたい考えのクラス担任が対立し、学校との関係もギクシャクした時期もありました。

このクラス担任は、55歳で会社のリストラに遭い昔から夢だった教員（講師）に転身された先生で、東田直樹さんの著書「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」をクラス全員に読ませ、息子がクラスに溶け込めるよう学校の環境を整えてくださいました。

この先生は3年間一貫して担任を務められ、卒業式の際、メッセージをいただきました。

「最初に会った時、君は緊張と人見知りで何も話すことができなかつたよね。でも、だんだんと君のことも少しずつ分かってきたよ。一生懸命がんばって生活に取り組んでいる姿、1日も休まずに元気で登校してくる姿は、クラスのみんなの気持ちまで引き締めてくれるものでした。君とのふれあいは、あまりにも学ぶことが多く、僕にとっては、中学校での仕事の原点だと思っています。本当に、3年

間ありがとうございます。受験おつかれさま。すてきな高校生活を過ごしてくださいね」

⑪ Sさんから

Nさん、メールを読ませていただいて、本当に、なんと言ったらいいのかわかりませんが、とにかく前向きになれました！

息子のYも、デイサービスの方を足蹴りしたり、ランドセルの中身を放り投げたりとやりたい放題の時があるので、まだまだここで心折れてはいけないなあと思いながら、でも、これを乗り越えて、本人の楽しいと思える場所が見つかったらいいな〜と、もう一度思いました。

昨日はついに長女が朝から「学校へ行けないくらいお腹が痛い！」と言い出し、遅刻して登校する事になりました。学校の先生にはすでに体調の事は話していたのですが、本人はとても不安だったようで、学校まで付いてきて欲しいと珍しく言って来ました。

校門で娘と別れた後、学校にお電話し、娘が慕っている保健の先生とお話しました。

実は勉強の事、友達の事、校外学習の事、校則の事、沢山の不安があるようです、とお話しました。その日の夕方、担任の先生から電話があり、体調の事がある遅刻は、ペナルティカウントには入れませんし、これからもカウントされません、これからも配慮させていただきますので、安心して下さい。と、いうお話でした。

勉強の事も、「うちは学び直しを掲げている学校なので、大丈夫ですよ。」と言った内容だったと思います。

その晩、小学校のPTA総会があったので行くと、去年の担任の先生とお会いできました。去年のクラスはとてもやんちゃなクラスで、ヒヤヒヤしていましたが、そのクラスで息子にとってはおそらく初めての男の子の友達？ができました。先生は、いつも息子がクラスに居られるように教室に息子の休憩スペースを作ってくれました。

息子がクラスの男子を引っ掻いてしまった時は、学校であった事は学校で解決しますとあって、先生が相手の方にお電話してくださっていました。後日聴くと、先生も責められた事もあったけれど、皆さんお話すると分かってくださって、「うちも男の子やから怪我くらいきにせん！相手の人にも伝えといてください！」と、おっしゃってくださったそうです。

今の支援の先生もとても真面目だし、去年とはやり方が違ってお母さんも不安になるかもしれないけれど、どの先生もYくんの事を思って行動してくれているのは確かなので、沢山先生とお話してみてください。と、言ってくださいました。

学校には色々な先生がいて、まだまだ頑張れそうな気がしました。

TさんNさんをはじめ、北河内の皆さんと知り合えて本当に良かったと思っています。

次は高校とも色々話し合わないといけなくなるのかなあ？と、思っています🍀

これからもどうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。